

# 市民と市長の対話集会

第105回

タウンミーティング記録集



平成28年10月14日(金曜日)

会場 サンパルネ

時間 午後7時～9時

東村山市

## ○開催内容

平成28年10月14日（金）午後7時、サンパルネにおいて「タウンミーティング」を開催いたしました。今回は青年層の方を中心に座談会形式で開催し、29名の方にご参加いただき、ご意見をうかがいました。

## ○会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち22枚を回収しました。

### ・ アンケート回答者の住所地

本町	6人
恩多町	2人
栄町	2人
富士見町	2人
その他市内	5人
市外	5人
合計	22人

### ・ 年齢

20代以下	10人
30代	5人
40代	3人
50代	0人
60代	4人
70代以上	0人
合計	22人

### ・ 性別

男性	21人
女性	1人
合計	22人

## ○開催情報

●対象 市民の方（在勤・在学の方含む）

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

（手話通訳・要約筆記が必要な方は、開催日の1週間前までに

FAXまたは電話またはEメールにてご連絡ください）

連絡先：東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 fax/(393)6846

Eメール/kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
平成29年1月21日（土）	ころころの森	午前10時半～12時半

※1月のタウンミーティングは、乳幼児を持つ子育て世代の方を対象に開催いたします。

# タウンミーティング記録（概要）

## 【市長あいさつ】

皆さん、こんばんは。東村山市長の渡部尚でございます。本日は平日の夜7時ということで、大変お忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございます。

本日は、市内在住・在勤、あるいはご縁があるということで、概ね18歳から30代の比較的若い方々と意見交換をすることとさせていただきます。後ほど都市マーケティング課の職員から、なぜ青年層の方々とこうしたタウンミーティングを設けたのかということについて、詳しく説明させていただきますが、当市の大きな課題の1つとして人口減少ということがございます。東日本大震災のあった平成23年7月をピークに、残念ながら東村山市ではこの5年間で人口が2,400人ぐらい減少しております。東京都内では、多摩地区でも7つか8つぐらいの自治体で今、人口が減少しております。その多くは自然減。市内で生まれる赤ちゃんよりも亡くなられる方が増えてきたということが1つ。あと、社会減。引っ越してこられる方と、東村山市から他所のまちへ転居される方が平成24年まではずっと転入超過だったのですが、今は転出がやや上回るようになってきています。特に顕著なのが20代・30代の方の転出超過が目立つようになってきています。そういう意味で言うと、比較的年齢の若い方にとって魅力あるまちづくりを進めていかないと持続可能なまちが作れないということが大きな課題になっています。そうしたことから若い方々のご意見をできるだけ聞かせていただきたいと思い、こうしたタウンミーティングも大体毎月1回開いているのですけれども、どうしても10～30代ぐらいの方々の参加が少ないということがございまして、本日は若い方を対象にということで特別に開催させていただいた次第でございます。本日は市内に在住・在勤の方もいれば、市内に新たに寮を設けられた法政大学体育会 自転車競技部の皆さまにもご参加いただいて、大変ありがたいと思っております。

東村山市は実は18歳の人口は一時的に増えるのです。高校を卒業して都内の大学に進学される、あるいは都内に就職されるという年齢の方は一時的に増えるのですが、その後ずっと住んでいただいているかというのはなかなか難しいので、今日をご縁にぜひ皆さまにも東村山市にずっと住み続けていただければありがたいと考えております。そのためには皆さまから見て「東村山市にはこういうところが足りない」あるいは「こういうところを行政の方でもうちょっとがんばって欲しい」というようなご意見があれば、どんどん出していただくとありがたいと考えております。

実は、本日は今年4月に市役所に入庁した新入職員が傍聴ということで参加させていただいております。ほぼ皆さまと同世代、ほとんどの職員が20代の若い方々で、これから東村山市役所を背負って立つ方たちです。ほぼ同年代の市民あるいは在勤の皆さまがどんなことを考えているのか、感じているのかということをお聞かせいただくために参加させていただいた次第でございますので、ご理解をいただければと考えております。

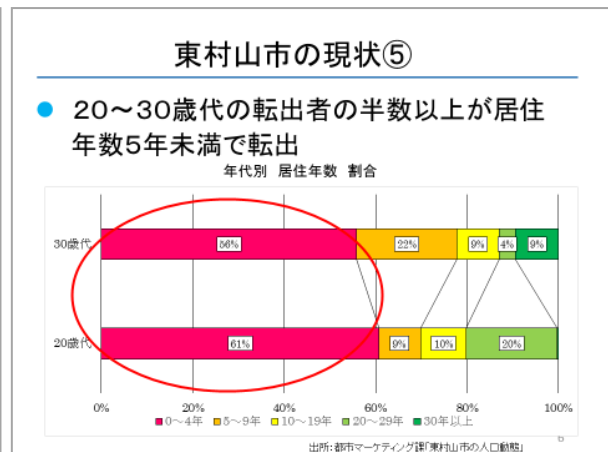
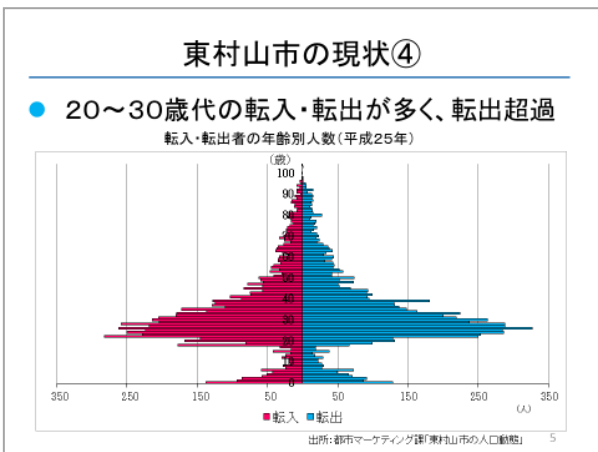
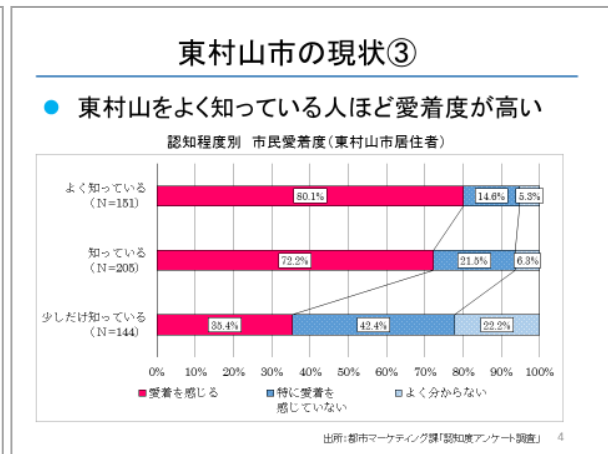
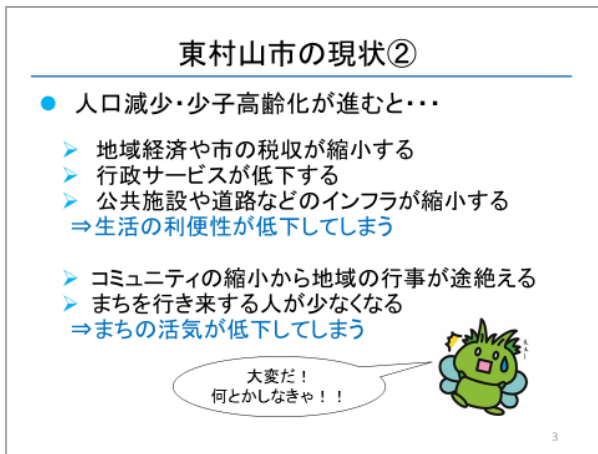
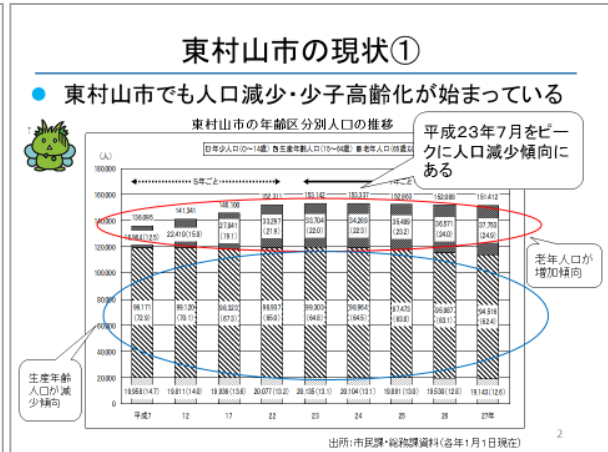
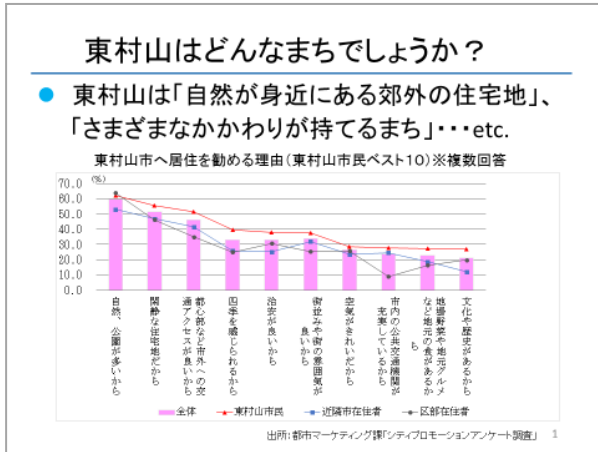
限られた時間ですけれども、皆さまにとりましても、そして東村山市にとりましても良い対話集会、タウンミーティングになりますよう、よろしくお願い申し上げます。本日、司会はKさんに進めていただきますので、よろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

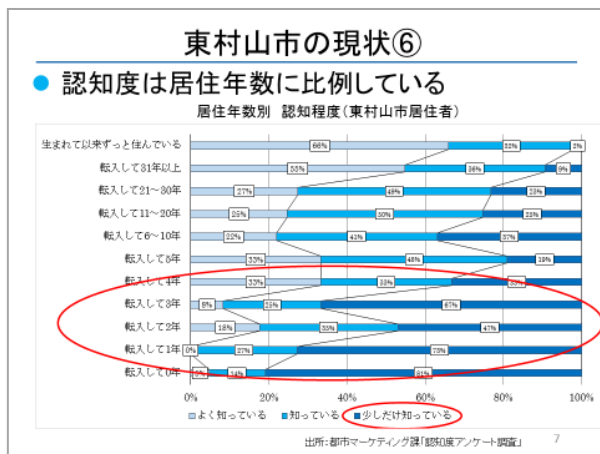
# 【会場でのご意見 及び 意見交換（要旨）】

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

冒頭、都市マーケティング課の職員より東村山市の現状について説明した後、それらの現状を踏まえた上でご意見をうかがい、意見交換を行いました。

## ＜都市マーケティング課 説明資料＞





### 住み続けたいまちづくりのために

どうすれば東村山に住み続けたい人が増えるだろう？  
住み続けたいまちづくりについて皆さんで考えましょう！

8

◎ 司会 ◎

皆さま、こんばんは。本日、司会進行を務めさせていただきますKと申します。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。それでは、ご意見のある方はどうぞ。

◎ Kさん ◎

恩多町に住んでおりますKと申します。私は平成25年に東村山市に転入というか戻ってきました。幼少期はずっと東村山市内に住んでおりました。なんで戻ってきたかということ、家があるから戻ってきたということなんですけれども、またずっと長く居住したいかという「どうか」という部分があります。今の年齢であれば通常、家に帰ってきて寝るだけなので、申し訳ないのだけれども税を負担しているだけで何かメリットがあるかというところが顕著に見受けられないので、いろいろな部分でそういった還元してもらえものが目に見えてわかればいいなと思います。

◎ 市長 ◎

ありがとうございます。私のほうからいくつか質問してもよろしいですか。

今、「寝に帰って税金を払うだけであまり恩恵を被っていない」という手厳しいご意見がありました。Kさんとしてはどんな物とかサービスとか、個人的な趣味で良いのだけれども「こんなのがあったら良いのではないか」というのは、どんなものを期待されますか。30代ぐらいの方が行政に対して期待するものみたいなものがあれば、イメージだけでも教えていただけますか。

◎ Kさん ◎

「みどり響きあう東村山」というのが1つのテーマになっているので、時折、多磨全生園の森とかに足を運んだりもしますが、そういった時にもう少し四季を感じるようなものがあったら。私はよく都内とか周辺の公園や博物館に行って知識を増やしていますが、市内にもいくつか史跡等があるので、多磨全生園といった部分で今後そういうものがあったら良いなと思います。

◎ 市長 ◎

ありがとうございました。もしかすると多磨全生園のことを知らない方もいらっしゃるかなと思います。多磨全生園は東村山市の東部にある青葉町と清瀬の市境にある国立のハンセン病療養施設です。もう100年以上前に東村山に設置をされたのですが、昔ハンセン病というのは非常に差別をされて、国の誤った強制隔離政策で、発病すると強制的に全生園をはじめとする全国に13ヵ所ある療養施設

に強制措置されるという時代が長いこと続いてきまして、著しい人権侵害が行われたわけですが、今、入所者の皆さまがここを「人権の森」として残す運動をされていて、東村山市としても「ぜひ残していこう」ということで活動をしているところです。行ったことない方にはぜひ一度、多磨全生園に足を運んでいただきたいと思います。広大な敷地の中に入所者の皆さんがお金を出し合って植えた木々が、今、素晴らしい森になっていますし、ハンセン病の歴史等を学ぶ国立の資料館もございますので、そういったところを見ていただくとわかるかなというふうに思います。ただ、普通の博物館や美術館または公園と違って重い悲しい歴史があるところなので、若い方のデートスポットみたいなかたちにはなかなかかなりづらいところではあるのですけれども、東村山市としてはぜひ残して人権を学んでいただく場所としてこれからもPRできればと考えておりますので、Kさんにも協力をお願いしたいと思います。

◎ Tさん ◎

富士見町在住のTと申します。冒頭、都市マーケティング課の方から説明いただいた中で、「買い物する場所が少ない」という声があるということですが、市のほうで買い物する場所を誘致するという政策やお考えがあれば、ぜひお教えいただきたいと思います。

◎ 市長 ◎

先ほど職員のほうから中学生へのアンケート結果を申し上げましたけれども、毎年、無作為抽出で市民の方2,000人にアンケートをしていて、その中でも東村山に足りていない、良くない点として挙げられているのが、トップは「交通の便が良くない」。交通の便が良くないというのも、鉄道の便が悪いのか、道路事情が悪いのか、そこまではよくわからないのですけれども、そのことを挙げられる方が一番多くて、次に多いこととして「買い物が不便だ」ということが挙げられています。かつては市内13町それぞれのエリアで徒歩圏内に買い物できるような商店街があったのですけれども、そうした商店街が20年ぐらい前から徐々になくなってきているというのが1つの現状としてあります。近隣の市ですと、東久留米市に比較的大型のショッピングモールができたり、所沢市は駅周辺に商店街が形成されていたりというようなことがあるのですが、東村山市の場合は東村山駅周辺、久米川駅周辺、それから秋津駅周辺を市の都市核と位置付けて、この3つの中心核については市としても駅前を整備したり、再開発でビルを建てたりということをして、商業施設が多少はあるという現状です。

しかし一方で車社会になって、元々あった地域の商店街がなくなって買い物に不便なエリアが市内で増えているのも事実です。人口構成も高齢化に伴って、今まででしたら皆さん、歩いたり自転車に乗ったりして駅まで買い物にいられていたのができなくなってきているというのが大きな課題となっております。現状、市で大手スーパーを誘致するというような取り組みはしておりません。それだけ巨大な敷地も市内にはないということもあります。しかしながら、買い物が不便で日常生活に支障が出ることはないようにしていかなければならないので、既存の商店でがんばっているところの支援をしていくということと、あと例えば東村山駅周辺ですとこれから鉄道の高架事業が東京都で行われるので、それに併せて地域の活性化になるよう、そういうものを誘致するような取り組みをしていきたいと考えているところでございます。

ただ、中学生がイメージしている「買い物が不便」というのは、いわゆる繁華街のようなものであったり、大型のショッピングモールが欲しいという意見が多いんですね。それはいくらがんばってもこれから東村山が立川や吉祥寺のような商業地になるというのはなかなか難しいところがあるのです

が、そうは言っても何か魅力あるお店を開業できるような支援を少しずつでもしていければと考えております。

Tさんから見て、「こんなお店が市内にあったら良いな」というのはありますか。例えば「富士見町にこんなのがあれば良いな」というのはありますでしょうか。

◎ Tさん ◎

そうですね、富士見町は富士見町で閑静な住宅街らしさというものがありますから、もし期待するのなら、今、進めている立体交差化事業で、例えば今まで線路があった敷地の下とかスペースに余裕があるので、そういったところで市が盛り上がりを見せられたらと思っています。

◎ 市長 ◎

ありがとうございます。高架下は基本的には鉄道事業者の土地になります。高架下全体の15%ぐらいの敷地は市もそれだけお金を拠出しますので、市が所有できるかたちになります。ただ、鉄道事業者も駅のすぐ下は何らかの商業活用をされるのではないかと思いますので、ぜひそうしていただきたいということでこれから西武鉄道とも十分協議したいと考えております。

せっかく駅が高架になって踏切が除却されても、賑わいが形成されないとあまり価値がないので、ぜひ高架工事に併せて活性化ができるように取り組んでいきたいと考えております。

◎ Aさん ◎

法政大学 自転車競技部のAと申します。2月に国立市から本町に引っ越してきました、まだ東村山には8ヶ月しかいないのですけれども、先ほどもあったように、若者の東村山に対する認知度が低いということで、何か若者が東村山を知る機会だったり、そういう会がもし開かれていたら教えていただきたいなと思います。どういう機会があるのか知りたいと思いました。

◎ 市長 ◎

若い方に知っていただく取り組みということで言うと、昨年度、市から補助金を出して、商工会青年部の有志の方々にいわゆる婚活イベントを2回ほどまちの中で開いていただきまして、参加者は全員市外の方だったんですけれども、観光スポットであるお寺や八国山等をバスで巡りながら婚活するという取り組みをさせていただきました。あと昨年5月から全国で上映された「あん」という映画があるのですが、河瀬直美さんという方が監督をされて樹木希林さんが主演したハンセン病がテーマの映画で、久米川駅周辺と多磨全生園でロケが行われて世界でも50カ国ぐらいで上映されている映画です。このロケ地をスマートフォンのイングレスというゲームを使って巡るというイベントをやったりして、これも結構市外から大勢お見えいただいたりというようなことをやっています。まだ若い人にアピールしきれていないので、これから「こんなふうにしたらどうか」とご意見をいただきながら、我々もがんばっていきたいと考えております。

私は法政大学には伺ったことがないのですけれども、これまで都内のいくつかの大学で講演をしたことがあるのですが、先日伺った明治大学の授業では1クラス30人ぐらいの学生さんがいらっしゃった中で「東村山」という名前を初めて聞いたという方が4分の1ぐらいいらっしゃいました。大体地方から進学のために東京に出てきたという方々がほとんどだったので、やはりまだまだ知られていない。昔ですと「東村山」と言うと「志村けんの東村山」ということで、ある程度、全国



的な認知度は高かったのですが、若い人には志村けんさんの神通力も通じなくなっている傾向があるので、我々ががんばっていかねばいけないと考えております。

すみません、質問しても良いですか。前は寮が国立市にあったということなのですが、東村山に引っ越してこられて8ヶ月ということで、練習する場所あるいは寮で生活する場所として東村山に住んでみた感想を聞かせていただいてもよろしいでしょうか。

◎ Aさん ◎

先ほども出てきたように、買い物をする場所が少ないということは国立市から引っ越してきてすぐ感じました。

練習面につきましては、道路の状況がすごく悪いという印象を持ちました。特に西武園の近くの道路はひび割れだったり路肩が陥没したりしていて、練習の効率は非常に悪くなったと思います。

◎ 市長 ◎

前は国立市のどの辺で練習することが多かったのですか。

◎ Aさん ◎

前は国立市から立川市の間を練習したりもしていましたし、道路の状況はあっちのほうが良かったです。

◎ 市長 ◎

市民の皆さんからいただく苦情としては道路関係が一番多くて、そこはがんばらなければいけないと考えております。

逆に引っ越してきて「ここは良いな」と思ったところはあまりありませんか。

◎ Aさん ◎

駅が近いですね。後はこれから魅力を探りたいと思います。

◎ 市長 ◎

ありがとうございます。



◎ Nさん ◎

諏訪町に住むNと申します。説明の中で人口減少とありますが、例えば人口が減少すると税収が縮小して行政サービスが低下するということですが、それは致し方ないことなのか。それとも今以上のサービスを受けるためには一人あたりの負担を増やすことになるのか。どう捉えていますか。

◎ 市長 ◎

極端に人口が減って税収が長期にわたって落ち込んでくるとすれば、やはりそれに併せてサービスの見直しをせざるを得ない状況があるのではないかと危惧いたしております。負担の問題は自治体だけではなくて国全体の問題になりますので、景気の動向にもよりますけれども、政府は消費税を引き上げるといようなことを計画してきたわけなので、恐らく今後そういったこともあり得ると思って



いますが、市が単独で市の税金を引き上げるといふようなことは今の段階では考えていません。ただ、いくつかの使用料とか手数料というものは自治体独自で決められますので、そういったことについては一定のご負担をお願いするといふようなこともあろうかと思ひます。

我々としては何とかサービスを低下させないようにして、極力、過度な負担にならないよう努力をしていくことがこれから大事なことではないかと考えております。

◎ Nさん ◎

先ほど「帰って寝るだけ」といふ話の中で、自分も仕事場が都内にあるので本当に帰って寝るだけなので、行政のサービスといふのがどういふサービスを受けているのか、実感が湧かないんですね。当然、住民税は払っていますし、住民税も昨年に比べて収入が増えていないのに税は上がっているんですね。「何をしたい」といふことは一切ないんですけども、その辺で気になったので。

◎ 市長 ◎

毎年のように税制改正はあるのですが、市民税について言えば基本的には所得が上がらない限り税が上がることはないで、ちょっとNさんのケースがどうなのか私も今わかりません。ただ、お預かりした税金がどういふところに使われているかといふことについて税金を支払っていただいている皆さんにきちんとお知らせする必要があると考えております。

大雑把に申しますと、今、市の中で一番予算を使っているのは福祉関連の予算です。人口構成が高齢化してまいりますと、どうしても医療とか介護とか、リーマンショック以降、景気が低迷して生活保護になってしまう方が増えています。それから保育園とか子育て支援についても少子化対策としてこの間、待機児童解消といふようなことで保育サービスを充実させたりといふ努力をしてきていますので、そういったことで福祉関連予算が非常に増大しているといふような現状です。ですので、比較的若い年齢でお子さんがいらっしやらないと、税金を払う一方で恐らくあまり行政サービスを受けていないと感じられるのだと思ひます。子どもがいれば保育園あるいは学校等で行政にお世話になっているというイメージはあるのですが、どうしても都心にお勤めされていると朝早くお仕事に行かれて夜遅く帰ってこられて自宅で寝るだけで、大して公共施設に行くこともなければ市役所のサービスを受けることもあまりないので、そういう意味で若い方は「一方的に税金を取られるだけで恩恵を受けていない」といふ意識を持たれるのだらうと思ひるので、その辺のギャップをどうやって埋めていくかといふのはこれから我々にとって大きな課題かなといふふうを受け止めさせていただきました。

◎ Nさん ◎

ありがとうございます。

◎ Tさん ◎

恩多町在住のTと申します。人口が減って行って少子化が進むといふことでございまして、今後は20代、30代の方々が長く住んで子どもを産みたいといふ環境をつくるのが大事になってくると思ひますが、新しく子どもを作ることによって家庭の人々が何かメリットを受ける。例えば医療費が一部軽減されるとか教育費の軽減や、買い物サービス等々あると思ひますが、長く子育てをして過ごしたいと思ってもらえるような子育て支援について、東村山市で推進しているサービスや計画がありましたら教えていただきたいと思ひます。

◎ 市長 ◎

子どもを産み育てるとするのは男性にとっても出産される女性にとっても人生の一大事業でありますので、どのまちで出産・子育てをするかというのは人生にとってすごく大きな選択なのではないかと思えます。日本全国、基本となるサービスはそんなに極端に違うわけではないかなと思っておりますが、今、東村山市が力を入れているのは保育園に入りたくても入れない待機児の解消ということで、平成23年は当市に待機児童が222名いたのですが、この間、保育園の増設だとか定員増をして平成27年4月では32名にまで減ったのですが、今年の4月でまた76名まで増えてしまっているのですが、ピーク時に比べれば待機児を解消するための努力はかなりしてきたつもりです。今後も待機児ゼロを目指して進めていきたいと考えております。

もう一つ今、力を入れているのは、妊娠をされると役所に母子健康手帳というのを取りに来られるのですが、ちょっとしたお祝い品をお渡しすることで必ずご本人に来ていただいて、その時に保健師と面談をしていただいて妊娠から出産に至るまでのいろいろな相談にのる「ゆりかご・ひがしむらやま」という事業を今年から始めています。出産後、保育園に預けられる方もいれば家庭で子育てされる方もいらっしゃるのですが、近年の傾向としては核家族化で若いお母さんが一人で孤立して子育てをするようなケースが多くて、それを解消しようということで、生まれた後は「こんにちは赤ちゃん事業」といって全部の新生児について市の保健師が必ずお母さんと一緒に面談をして、育児ノイローゼとか何か問題や課題を抱えていないかどうかの確認を取らせていただいて、リスクが高めの方については継続的に何らかの支援をするということで、安心して妊娠・出産・子育てをできるような環境づくりというのをまずベースに据えて子育て支援事業を行わせていただいております。

それから医療費の関係は都の事業がベースになるのですが、東村山市は今、乳幼児については基本的には無料という状況です。小学校にあがると所得制限はありますが、東京都の制度で基本的には中学校を卒業するまでは200円だけ取られるようなかたちになります。ただ、都の制度は所得制限があるので、一定の所得以上の方はそのサービスは受けられませんが、全体の8割ぐらいの方は中学校を卒業するまでは1回200円で医療を受けられる状況になっています。

あと、教育関係で特にというのは、施設的なことというのと当市の場合は少なくとも平成24年までに小学校、中学校の校舎と体育館の耐震補強工事が全て完了して安全な体制になっています。あと、普通教室も全てエアコンが設置されています。今年度から特別教室についても計画的にエアコンを設置するという取り組みをしております。古い学校が多いんですけども、建て替えるまでにはまだ若干時間があるので、そうした耐震補強工事等の手を入れつつ、子どもたちの学習する環境を良くする取り組みをしているところであります。

教育内容については先行ではないんですけども、例えばタブレット端末を教育現場に導入したりしながら教育効果が上がるような学習を進める取り組みをさせていただいて、できるだけ子育て、それからお子さんの教育環境としても良い場所になるように努力をしているところであります。

◎ Sさん ◎

久米川町に在住しておりますSと申します。私自身、東村山で生まれ育って結婚して東村山に家も買って子どもが3人いるんですけども、結婚して棲家を決める時に自分自身もそう思ったんですが妻は市外の人なので「東村山は他市と比べてどんなメリットがあるのかな」と言われた記憶があります。例えばそういったことを近隣にお住まいの方や賃貸住宅にお住まいの方に「こんなことをやっているんだよ」と広く発信するようなことを実際に行政で何をしていらっしゃるのか、また、「もっと

こうしていきたい」というお考えがあればぜひお聞かせください。

◎ 市長 ◎

今、自治体でもシティプロモーションとかシティセールスという言葉が数年前から言われるようになってきました。これは冒頭申し上げたように日本全国で人口減少社会に入って、ある意味、自治体間で人の取り合いが始まっているという状況があって、東村山市も今までのようにさほど努力しなくても人口が順調に伸びてきた時代とは環境が全然変わってしまったということがあります。そういう中でシティプロモーションの中でもターゲットはやはり若い方。行政の糸口としてはやはり「子育て」というところが取っ掛かりとしては一番アピールしやすく、最初に成功したシティプロモーションの事例としては千葉県流山市で「母になるなら流山」というキャッチフレーズで子育て支援を強力に推し進めています。例えば、東村山市の場合は出勤する時に親御さんが子どもさんをそれぞれの保育園に連れて行くことになっていますが、流山市の場合は駅前に子どもを連れて行く行政が委託した業者さんがお子さんをそれぞれの保育園に送ってくれるサービスをやっています。これはお金がかかるのでちょっとやそっとではなかなかできないところもあるのですが、少しずつそういう差別化を自治体間でやるようになってきています。東村山の場合は差別化を図るよりベーシックなサービスをより充実させたいということで、先ほど申し上げたような市役所の保健師と顔見知りの関係を作っていて、何かあればすぐに相談できるような体制をまず作ろうということで「ゆりかご・ひがしむらやま」事業ですとか「こんにちは赤ちゃん」事業というようなことをやっています。

東村山市では都市マーケティング課というところが市のシティプロモーションをやるセクションになっていて、今後、当市の地理的な優位性とか自然が良いとか、「子育て環境としてこんなところがあります」とか、あるいは「市内の物件が同じ30キロ圏内で中央線沿線に比べると安いですよ」とか、いくつかのアピールポイントを多くの方にアピールできるように、今 PR 用の冊子のようなものを作成中です。次の展開としては映像化して市のホームページに載せるとかいろいろなことはあるのですが、宣伝ばかりで内実が伴わないといけないので、子育て環境を良くするとか多くの市民から苦情のある道路事情を良くするといったこともしっかり取り組みつつ、「東村山は他市と違うこんなこともやっていますよ」ということが打ち出せればなと考えております。

ちなみにSさん、「こういうことをやったら良いんじゃないか」ということがあれば、ぜひ、教えていただくとありがたいのですが。

◎ Sさん ◎

特に個人的な考えがあるわけではないんですけども、やはり今、若い方は市報とか配布されますけどなかなか見ない方が多いのではないかと思うので、インターネットだったり、市長もフェイスブックで情報を広く発信されているので、発信するチャンネルを行政としても増やしていただくと我々としてもわかりやすいのかなと思います。

◎ 市長 ◎

遅ればせながら、先月から市も公式のフェイスブックを開設しました。ツイッターは前からやっているんですけども、コンテンツがあまりにも貧弱なんじゃないかという声があるので、各課が積極的に情報発信してプロモーションできるようにがんばりましょうということで、市役所を挙げてそういう取り組みもしております。まだまだ足りていないところもありますけれども、これからいかにま

ちをアピールできるかという視点で職員一人ひとりがまちの広報宣伝を担っているつもりでがんばっていく必要があるかなと考えております。

◎ ○さん ◎

多摩湖町在住の○と申します。今まで出てきたお話の中で広報活動ということで、今の段階だと恐らく皆さんが思っているより他の地域との差別化といったところがあまり伝わっていないのではないかなと思いました。今以上に強かに広報活動をされれば東村山独自の行政サービスというところが伝わるのではないかなと思いました。

あと、多摩湖町のほうだと買い物で不便なところがありまして、若い方が思われているのはやはりちょっとした買い物の利便性というのがまだ弱いかと思います。今までのお話を聞いていますと、他に強かに推進している3地区があるようですけれども、それだけだと地域によってのムラというかバラつきが結構大きくなって地域格差というものもあるので、底上げというところをぜひお願いしたいと思います。

◎ 市長 ◎

確かにプロモーションについてはようやく地に着いたというような段階なので、これから皆さんからいただいたご意見を参考にしながら、東村山の良さみたいなことを少しでもアピールできるように努力したいと考えております。市民の皆さんにも一人ひとりがまちの広報・宣伝マンというかたちで、もしお住まいを探している方がいらっしゃったらぜひ「東村山良いよ」というような紹介をしていただけるとありがたいと考えておりますが、そのためには人に進められるようなまちづくりをきちんとやるということが行政にとっては大事なことだと考えております。

買い物の問題でいうと、確かに市内でもエリア的なバラつきがあって、特に北西部エリアの多摩湖町、廻田町、それから野口町でも駅から離れた地域、それから諏訪町等については徒歩圏内で日用品や食料品を買うことができないところがあります。多摩湖町ですと競輪場の先に大型のスーパーができたのですが、市内ではなく所沢市になってしまいますので、北西部の商環境というのは地元の商店街がほとんどお店を閉めてしまっているような状況ですから、特に高齢者にとっては住みづらくなってきているかなというのは私も感じています。その辺はこれから誘致をするなり、市でどういう対策を打てるのか真剣に考えていく必要があるのかなというふうに考えております。

その他の地域でいうと恩多町は逆に街道沿いに結構お店が立て続けにできたエリアもありますが、市内で見ると北西部4町が商環境としてはあまりよろしくないかなというのは、私も実感していますので、今後、何らかの対策を講じられるように努力したいと考えております。

◎ Sさん ◎

富士見町在住のSと申します。現在24歳で、ずっと東村山に住んでいるのですが、先ほど話があった広報について、ツイッターで映画「あん」とかのハッシュタグを見ると「東村山ってどういうところなんだろう」とか映画を見てそういうふうに言っている方が結構いて、そこで思ったのはもっと具体的に広報活動を広めていっても良いかなと思ったりしました。映画とかは若者にも取っ付きやすかったりアニメとかも結構取っ付きやすいと思うので、今まで観光としては思いつかなかったところが観光資源になっていると思うので、そういうところで発信していったら結構面白いことになるんじゃないかと思っています。

◎ 市長 ◎

映画「あん」について言えば国内で40万人以上の方がご覧になられて、世界でも50ヶ国ぐらいの国で上映されていて、フランスかスペインだけでも10万人ぐらいの方がご覧になっているそうですから、そういう意味では合計すると世界中で100万人ぐらいの方が映画を通じて東村山の風景をご覧になったのではないかなと考えております。

去年はシティプロモーションの一環としてイングリッシュを使ったロケ地めぐりのイベントをやらせていただいたり、海外からも多磨全生園を訪れる方がいらっしゃるとのことなので、英語と中国語とハングルの3カ国語で「あん」のロケ地を紹介するチラシを作ったりしてアピールに努めているところです。できるだけそういったものをうまく活用しながら、とりあえず「一度行ってみようかな」と思って来ていただくことがまず取っ掛かりになりますので、そういった拡散しやすい情報をうまく活用しながら多くの人に「東村山ってどんなところなのかな」と興味を持っていただいて、「こんな面白そうなところがあるんだ」とか「このうどん屋さん美味しそうだな」というようなことで来ていただけるようないろいろな機会をつくっていくことが大事で、そのあとに「こんな良いところがあるんだ」ということを知っていただいた中で将来、結婚して住む場所として選んでいただけるようにしていく必要があるのかなと考えております。

ただ、最近の傾向でいうと、どこから東村山に引っ越してくるのかというと、実は所沢と小平の方が多いいです。出ていかれる先もやはり所沢と小平が多くて、職場が変わったりしない限りは沿線を丸ごと変えるということはあまりないようです。その辺で人間が行ったり来たりしているような状況なので、周辺市にどうやって負けないようにするかということと、最近の20代・30代の若い方の傾向としては今まではそういう人口移動はなかったんですけども23区に移動される方が若干増えてきています。これは特に東日本大震災以降、都心等に勤める方がもっと職場に近いところに住みたいというような傾向が強くなったと言われてはいますが、都心までの距離というのはなかなか我々の努力では解消できないので難しいところではあるのですが、23区にあまりない良さを感じてもらって東村山に住んでいただくようにするという努力が必要なのかなと感じております。

ぜひお友達にも「東村山、良いところだよ」ということで連れてきていただけるとありがたいと思いますので、よろしくをお願いします。

◎ Sさん ◎

埼玉県朝霞市在住のSと申します。市民2,000人アンケートの中で東村山に居住を進める理由というのでいくつか候補があるのですが、厳しいことを言うようですがこの内容からすると近隣も全く一緒なのかなというのが率直な感想です。私の住む朝霞市もそうですし近隣の新座市とか和光市とかも全てが該当するのかなと思うので、これを売り手にしていくのは非常に厳しいのではないかなという感想です。

もう1つ質問なんですけど、4年後に東京オリンピックが開催されますが、それに向けて何か「こういうまちをつかっていきたい」、「オリンピックを終えたあとはこういうまちであってほしい」というようなビジョンがあれば教えていただきたいのと、それに向けての具体的な施策があるなら、お聞きしたい。これからスポーツをがんばっていこうという方がいるので道路整備もやってくれるのかなと期待しながら聞いていたのですが、スポーツ振興も含めて今後4年後を境にどう変わっていくのかというビジョンがあれば教えていただきたいので、よろしくをお願いします。

◎ 市長 ◎

最初の感想について申し上げますと、東京近郊の住宅都市として発展してきたまちというのは他所と差別化をするというのがなかなか難しいです。おっしゃられるように埼玉県朝霞市や新座市、和光市というのも条件としてはほとんど同じようなところがあって、むしろ和光なんかのほうが都心に出るには近いかなど。そのぐらいの差しかないので、どうやって差別化するかというのが非常に難しいところがあるというふうに私も感じています。

それから2点目のご質問に対してのお答えですけれども、先ほど来、申し上げているように人口減少、それから高齢化・少子化という中で「これからも住み続けたい」「住みたい」というまちになるにはどういうまちをつくっていくかというのがすごく大事だと考えていて、当市の場合はやはり遅れている都市基盤整備をきちんと進めていくことで、まず都市の価値を上げることが非常に大事ではないかと考えております。

都県境ということもあって今まで東京都の大きな事業がなかなかできなかったのですが、ようやく多摩地域の南北の幹線道路である府中街道の整備に併せて東村山駅周辺の連続立体交差事業が行われ始めていますので、これを核にしながら自転車も人も車も快適に安全に行き交うことができるような基盤整備をしっかりと進めるということが1つあると考えております。

それとまちの価値を上げるとともに、住む人の活力を高めていく。元気を出していただくようにするということが非常に大事で、東村山の場合は「子育てするなら東村山」というキャッチフレーズでいろいろな子育て支援事業をやったり、教育の充実を図っていて、そういうところでファミリー層の皆さんにアピールできるような施策展開をすることが大事だと考えております。

一方で、高齢者の皆さんにとっては、残念ながら東村山は他市に比べて特に男性の健康寿命が短いということがあって、高齢者の皆さんの健康寿命を伸ばす取り組みが大事です。そういったことを通じて赤ちゃんから高齢者まで元気でいられるような支援をする。そのことでまちの価値を上げ、人の活力を高めて、そして住む人の暮らしを向上させていくということが大事だと考えております。特に東村山の場合は地場の大きな産業がほとんどないのです。大きい事業所もあまりありません。ただ、青年会議所や商工会青年部の皆さんが一生懸命がんばっていただいているので、これから地域の経済を少しでも活性化しようということで、今、国の地方創生の流れに乗りながらいくつか起業支援事業を始めていたり、あるいはいくつか既存の地場産業で東村山には豊島屋酒造という造り酒屋が久米川町にあるのですが、そこをHUB<sup>ハブ</sup>としながら蔵元から始まるまちおこし事業ということで、まず酒蔵に来ていただいて市内を歩いていただくような事業を始めています。トータルで言えば今、申し上げたように、まちと人と暮らしをより良くできるまちにするということ、オリンピックに向けて全力を尽くしていきたいと考えております。

オリンピックに限って言うと、市内でオリンピックの競技は行われませんので、1つは何とか事前キャンプを誘致したいと考えておまして、いろいろなルートを通じて取り組んでいるところでございます。それとともに、オリンピックが都内で行われることで市民スポーツの振興をさらに図るとか、今、子どもたちがどんどんスポーツをして体力的に向上している子とスポーツ嫌いで体力が低下している子と2極化しているのが、子どもたちの体力向上、それからオリンピックをきっかけに少しでもスポーツ嫌いの子どもたちにもスポーツに親んでもらえるような仕掛けをこれから取り組んでいきたいと考えております。あと、国際理解ということ。それからもう1つの柱としては、当市は多磨全生園があるということで人権教育にかなり力を入れておまして、オリンピックと一緒にパラリンピックも行われますので、障害者も含めて人権教育のさらなる進行ということを教育の現場でオリンピッ

クに向けて子どもたちに教育していきたいと考えております。

◎ Sさん ◎

企業誘致の件も話があったのですが、やはり行政だけでは限界があると思いますので、民間企業も含めて一緒にやらないといけないこととは思いますが、行政としてそこに対して何かできることも考えていただければ幸いです。よろしくお願いします。

◎ 市長 ◎

近年の傾向としては、東村山市には地方に本社・本店のある銀行や企業が首都圏進出の足掛かりとして東村山市内に支店を構えるケースが何件かあります。新宿まで30分ぐらいの立地の中で東村山市は地価・家賃が安いということがあって、いきなり都心に出るよりは比較的負担が少なく店を構えられるということがあるようなので、その利点をうまく活かして首都圏進出を目指している企業さんに「東村山市どうですか」というようなかたちのアピールができないかということを検討しています。それは当然、我々だけではできないので、足掛かりとして出てきている金融機関等々とうまく連携しながら1店でも企業誘致ができればなと、そんなふうに考えております。

◎ Tさん ◎

野口町に住んでいますTと申します。今回、魅力あるまちづくりという話でまず市民アンケートを見ますと過去5年間2,000人に出して回答率が4割5分もいないのが実態だと思いますけど、そこで1つ思うのはその都市の将来像というのが見えないと私は住んでいて思います。今回たまたま東京都の予算が余ってきたので高架事業をやりましょうというのが実態だと思います。そこで東村山も当然お金を出して整備するわけですけど、その中で当然、事業者が強いというのはわかるんですが高架事業をやると必ず市民からは「駐車場が遠くなる」という不平不満が出る。西武池袋線やメトロの高架等を見ていると、駅は高いところにあるんだけど一番良い場所は事業者が取るという話が出る。市長にがんばっていただきたいのは、先ほど都市基盤の整備という話が出た。その中でそういうことを重点的にやっていただきたい。

住んでいる既存の方を見ると、都市基盤の整備に関しては満足・やや満足というのが20%強です。不満・やや不満というのが40%強です。それは住んでいる人の意見で、道路整備ができていないというのが実態だと思うんです。だから将来像が見えないというのは、アンケートからも出ているように70代なら50%はわかる。ただし、若い年代になると例えば10代では9割5分は将来像が見えない。20代になると8割、30代は7割という数字が出ています。東村山の魅力は何かということをもっと具体的にアピールすることが必要なのではないかとということなんです。例えば市報は3分の1がじっくり見ていて、残りの3分の1はある程度見ていると。残り50%はざっと目を通してというような数値が出ています。市報1つ見ても「あっ」というアピールするものがないのではないかなと思います。例えば私も市報は読んでいますが、報告・連絡が主になっているのが実態だと思います。その中で一番のアピール材料はSNSなり目で見ると市報であったり、いろいろなものがあるので、それをもっと強力にアピールすることでもっと魅力ある町が出てくるというのも1つの手段ではなからうかと考えています。

それと今日のタウンミーティングは青年層が対象ということですけど、今日は新入職員も来ているというお話しでした。この若手が市の中からどういうふうに見ているかという意見も聞きたかったと



というのが感想でございます。

◎ 市長 ◎

高架事業についてですが、先ほど申し上げたように高架下の活用をどう進めていくかということがすごく大きなポイントになろうかと考えております。大体、一番良いところは鉄道事業者が確保して商業施設を造られるケースが圧倒的に多いわけなんですけど、東村山の場合はどういう商業施設が良いのかということは今後、鉄道事業者とも十分協議しながら、交通系施設形成ということ言えば駐輪場・駐車場をどのように配置していくか、それは十分検討・協議を進めていきたいと考えております。

それからアピールの方法についてですが、確かに市報はある意味、市報としての役割があるので、読んで面白いというものではないかもしれませんが、この間ビジュアル的にカラー化したり、トップページはビジュアルを多くする等の工夫をかなりして、まず目に着くようにして手に取ってもらってご覧いただくということを意識しながら作ってきているつもりであります。さらに読んでもらえるようにするための工夫というのは必要だと思うのですが、あとは対外的にどのように媒体を使っていくかとなると、やはり市外の方に市報を渡すわけにはいきませんから、当然ネットを使って何らかのアピールをするというのが一番手っ取り早いんですけども、あとは意外と口コミというのが大事で、行政もそうなんですけれども、まず東村山に住んでおられる人から「うちのまちはこんなまちだよ」ということをアピールできるようなことを市民と一緒に進めていくことが大事ではないかなと考えているところでございます。

それと、庁内の特に若い職員の意見を聞いているのかというようなことだったのですけれども、内部ではそういう取り組みはしております。全ての職員を一同に会してというのはなかなかできないのですけれども、私も月に1回は若い職員と昼食会というのを開いていて、ざっくばらんにいろいろな意見を聞く場を設けて、できるだけ職員からも「こんなことを考えたらどうか」というご意見はいただいているところです。こういったことを通しながら、役所としても私から管理職、そして一般の若い職員まで同じバクトルでまちづくりを進めていければなと考えております。

◎ Kさん ◎

青葉町に住んでいますKと申します。地域課題を解決するにあたりまして、今、第4次総合計画とかみんなが進めるまちづくり基本条例で「協働」ということが非常に大きなテーマになっています。私は2年前から協働に関心を持っているグループと一緒に研究し、昨年の10月に市に検討会を設立する要望を出しました。あれから1年経ちまして、協働に関しての成り行きを見ていますと、市民側にも責任があるのですが行政側の職員の方々の協働に対する意識の変化というものが感じられないというのがあります。いろいろと他市の状況を見ましても、先行してやっているところも行政の方々の意識の変化あるいは行政内部における協働というものが進まないということがネックになって全体的に進んでいかないというようなケースが見受けられます。

今回、中央公民館で行政の方の全く協力をしようとしめない姿勢に合しまして、大変残念だったのですが、要するにできない理由ばかり探してできる理由を探してもらえないということでだいぶ言い合いました。そういった1つの姿勢が一生懸命やっている方々に対して大変大きな負のイメージを与えることになりかねないなと思いますので、職員の方々の意識の変化を隅々まで徹底することと、時代に合わせてどんどん変化していくということは自らいろいろと研究して感じました。職員の意識の変化について市長の現状認識と今後どうすればこれが進むかということをお伺いしたいと思います。

◎ 市長 ◎

ご指摘の点が具体的にどういうことだったのか承知していないのでご回答が的外れになるかもしれませんが、私が市長に就任してから市政運営の大きな柱として「市民参加」と「協働」ということで、その前提としてできるだけ市民の皆さんと情報を共有しようといういろいろな市の経営的な情報についても積極的に発信してきたわけです。市民協働課ができて7年ぐらい経ちますけれども、私自身は市長に就任した10年前と比べると東村山市役所の職員の協働に対する意識はかなり変わってきたというふうに感じています。当時はまだ協働という概念、あるいは市民参加ということについても東村山市の中では言葉すらあまりなかったぐらいのイメージでしたけど、今、徐々に市民の皆さんと行っている事業、一緒に推進している協働事業の数も増えてきていますし、お互いにふりかえりながら、「どういう点が足りていないか」ということをPDCAではありませんけれども、そういうかたちで必ず1年間の一緒に行ってきた事業を双方で確認し合って改善をするというようなことも行われるようになってきています。もちろん、まだまだ温度差があって、職員の中には協働の意識が低かったり、協働のマインドや、あるいは市民の皆さんと協働していくためにどういったスキルが必要なのかということについてまだ足りていない職員も大勢いますけれども、全体的にはかなり進んできたのではないかなと私は考えております。あとは個々、具体的に「ここはどうなのか」ということで少し踏み込んで、お互いに歩み寄れるようなことをしないとならないのかなと思っています。

毎年、市民協働課が市民の皆さんと職員と一緒に学べる協働の講座を行ってまして、今年度は入庁7年目の職員が悉皆で受けることになっています。そういう意味では協働の考え方、意識というものが徐々に浸透していると思いますので、もし足りていないところがあれば具体的な事例をあげてご指摘いただくとありがたいかなと考えております。

◎ Tさん ◎

市長が具体的な事例と言いましたが、前回のタウンミーティングは8月20日でした。その記録等がまだアップされていないということで、見ようと思ってもまだまだアップされていない。これは単純に50日も経っているんですね。1つは50日もかかるような仕事ですかと私は言いたい。それと、そのことを市長が認識しているのかどうか。出ていないという事実に対して50日もかかるのかと。それは仕事の怠慢ではなかろうかと思えます。相互に確認ということで、やっていないという事実を市長は把握しているのでしょうか。

◎ 市長 ◎

タウンミーティングは広い意味では協働なんですけど、これはあくまでも話し合いの場でありまして、私としてはある1つの目標に向かってお互いに事業を進めるという狭い意味での協働という概念には入らないというふうに考えていますので、タウンミーティングの場合は協働の事業としてあることをやったあとにお互いにふりかえるという作業は行っておりません。会議録は早ければ早いに越したことはないのですけれども、いろいろな諸事情で2ヶ月程度かかってしまうというのは、役所の場合、通例と言っては申し訳ないのですけれども、なかなか即あげというのは難しいところがあるので、そこはご理解をいただければと考えております。

◎ Sさん ◎

私の感覚としては市の職員さんの対応は非常に良くなったなと感じています。私自身も東村山青年

会議所というところに所属していろいろなまちづくり事業を手弁当でやっているわけですが、市の職員の皆さんの協働の意識というのはすごく上がってきたのかなと実感しているところでございます。ただ1点だけお願いしたいのが、行政と各団体の協働というのは結構できていると思うんですけども、各団体同士の横のコネクトというかジョイントの部分ぜひ行政のほうで少し音頭を取っていただくと、いろいろなことを考えている方って地域でたくさんいらっしゃると思うんですね。そういうところをつなぐという観点で少し行政のほうからお力添えいただくと、我々としても日頃「このまちを良くしたいな」という想いは各団体さん一緒だと思うので、1つお願いしたいと思えます。

#### ◎ 市長 ◎

確かにいろいろな事業が、行政と市民団体の皆さん、例えば青年会議所とかNPO団体と同じ目標を持って役割分担をしつつ行う事業が増えてきています。そういう意味では行政のある担当部署と市民団体の皆さんとの協働というのは確かに進んできていると思います。しかしながら、今ご指摘があったように、市民団体同士が協働をする場合、いろいろな難しさがあるということも私も理解しているつもりがありまして、その支援をどのようにしていくかというのは市としても課題だと思っています。また、先ほどKさんからもお話がありましたけれども、いわゆる市民団体同士をつなぐ中間支援機能をどうしていくかということこれから市民の活動が盛んになればなるほど行政としても考えていかなければならない役割だろうと考えています。

いくつかの取り組みとして、自然発生的に例えば市民協働課の今までのいろいろな取り組みの中で集まってきていただいた市民団体の皆さんが、自主的によろず交流会といったような市民団体同士の交流を図る場づくりを進めていますので、もし機会があれば青年会議所の皆さんにも参加をしていただくと良いかなと思っております。

また、今後、中間支援の有り方については市民活動団体の皆さんを交えて話し合う場を設けていきたいとも考えておりますので、そういったところでも議論を深めていきたいと考えております。

#### ◎ 司会 ◎

お時間となりましたので、今日はこれで終了とさせていただきます。最後に市長から閉会の挨拶をお願いします。

#### ◎ 市長 ◎

本日は大変お忙しい中お付き合いをいただきまして、ありがとうございます。

本日は20代、30代を中心とした皆さんからいろいろと「こんなことを考えたらどうか」というお話をいただいて、私自身大変勉強になりましたし、引っ越してきていただいて8ヶ月の法政大学体育会 自転車競技部の皆さんに参加いただけたというのは本当にありがたく思っております。先日も警察と交通安全協会の自転車の交通安全教室にもご参加いただいて、引っ越して間もないのに地域のためにいろいろな活動をしていただいているということで感謝申し上げたいと思っています。

こういう若い方々が東村山にさらに愛着を深めていただいて、住み続けていただけるように私も最大限これから努力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げたいと思います。Kさんには司会進行ということで進めていただきましたことに感謝申し上げて、閉会したいと思います。本日はありがとうございました。



市民と市長の対話集会  
第105回  
タウンミーティング記録集

発行 平成28年12月  
東村山市 市民部 市民協働課  
東京都東村山市本町1丁目2番地3  
TEL 042(393)5111  
内線 2564・2565